

江ま発第550号
平成20年10月17日

国土交通省
道路局長様

江南市長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付国道企第37号でご依頼のあった標記の件につきまして、別紙のとおり回答しますので、よろしく取り計らいください。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

【道路整備財源および制度について】

- ・江南市は、濃尾平野の北部、清流木曾川の南岸に位置する人口約 10 万人、面積約 30k m²の都市で、名古屋市から 20km 圏にあり名鉄犬山線により約 20 分で結ばれるなど利便性が高いことから、これまで、名古屋近郊の「ベッドタウン」として発展してきたが、少子高齢化の進展や地場産業の衰退により、都市活力の低下などが生じており、地域が経済的に自立し、市民が豊かな生活を送ることが困難になってきている。
- ・このような状況のなか、「江南市戦略計画（平成 20 年度～平成 29 年度）」を策定し、市の将来像である「豊かで暮らしやすい生活都市」の実現に向け、市民との協働を基本とし、様々な施策を展開している。
- ・これら施策を推進していく上で、「道路」は、地域の経済・社会活動を支える最も基礎的な社会基盤施設であり、活力があり、安全で安心できる社会の実現のためには、計画的にその整備・維持管理を行っていくことが、極めて重要である。
- ・しかしながら、本市の道路事情は、北尾張中央道（一般国道 155 号バイパス）を始めとする幹線道路や江南岩倉線等主要市道の整備がまだまだ不十分な状況であり、交通渋滞の発生など、様々な面で市民生活に支障をきたしている。
- ・また、市民からは、徒歩や自転車安全に通行できる道路整備や、道路緑化の推進、適切な維持・修繕等、多種多様な要望を頂いている。これら住民ニーズに応えながら、道路整備や道路の維持管理を計画的に進めるためには、安定的な財源を確保していくことが不可欠である。
- ・については、税制抜本改革にあたっては、必要とされる道路の整備財源を「地方枠」として確保されるとともに、地方の自由裁量が発揮できる仕組みを継続するなど、財源対策を充実することについて、格段の配慮をされるよう強く要望する。

【鉄道高架事業制度について】

- ・鉄道高架化事業の補助メニューとして、連続立体交差事業以外には、限度額立体交差事業が一般的であるが、鉄道高架には、膨大な事業費が必要なことから、限度額内で鉄道を高架にできる場合は少なく、限度額を超える事業費については、単独費をあてがい実施している場合が多いと考えられる。
- ・本市の場合も、名鉄犬山線布袋駅付近鉄道高架事業をこの手法で県と共同で実施しようとしているが、同様の状況のため、その財源対応に苦慮している。
- ・また、市の中心部に位置する江南駅周辺においても、鉄道高架化の構想があり、その対応は本市のまちづくりにとっての将来にわたる大きな課題となっている。
- ・については、鉄道高架化事業は、交通渋滞の解消、踏切事故の防止はもとより、地球温暖化防止、地域分断の解消、快適なまちづくりの観点等から、非常に重要かつ有意義な事業であると思われるので、ある一定の採択基準を満たした場合には、鉄道高架事業費の全てを補助対象とできる制度を検討されたい。（鉄道高架化事業をまち交ないし臨交で行う場合の市負担分に、起債が可能となるようなしくみを検討されたい。）

【市町境の道路整備について】

- ・都市間を連絡する道路については、調整は進めているものの、各々の市町が抱える課題、状況等の違いから、往々にして市町境で整備がストップしていることが多い。については、このような道路については、広域的な見地から、県が主導的に整備できる制度を検討されたい。

○現状

- ・都市計画道路の整備率 約 65%
- ・岐阜県と連絡する(都)愛岐大橋線の混雑度が 1.61 (H17 センサス)
- ・周辺市町との通勤・通学者の流出人口は、名古屋市(約 21%)が最も多く、次いで、一宮市(約 18%)、小牧市(約 11%)が多い。
- ・市内を南北に名鉄犬山線が縦断
(交差都計道 6 路線の内、1 路線のみ立体化、残りは未整備(2 路線は立体化未着手、2 路線は立体化事業中、1 路線は平面交差未整備))
- ・市内に 22 箇所の踏切が存在(うち 7 箇所の踏切が緊急対策踏切)
- ・交通事故発生件数 698 件(H18)
- ・主要市道(S47 に定めた 17 路線)の歩道整備状況
約 23.2km(65.1%)(H18)
- ・道路が整備され、人や車が安全・快適に通行していると感じる市民の割合 35.5%(H18)
- ・江南駅、布袋駅の 1 日乗降客数が減少(H12→H17)
(江南駅 26,697 人→25,314 人、布袋駅 8,778 人→8,512 人)
- ・事業所数、製造品出荷額の減少(H2→H17)
(448 事業所→268 事業所、198,528 百万円→160,240 百万円)
- ・東海地震・東南海地震が連動して発生した場合、市内ほぼ全域が震度 5 強以上の揺れを想定。
- ・市民意向調査(H19 実施)からは、道路の緑化、無電柱化などの景観、環境整備が望まれている。

○課題

- ・都市計画道路、国道、県道、市道の整備
- ・県境を跨ぐ新橋の整備
- ・市町境の道路の整備(他市町との連携)
- ・鉄道交差部の立体化
- ・踏切安全対策(踏切除却、踏切拡幅等)
- ・安全・安心な交通環境整備
(歩道整備、標識設置、バリアフリー等)
- ・駅周辺の賑わいの創出、駅へのアクセス性の向上
- ・新たな企業誘致(企業誘致のためのアクセス整備等)
- ・耐震化の促進、緊急輸送道路の確保
- ・道路緑化、無電柱化の推進
- ・植栽等、道路の適切な維持管理(アダプト制度の推進等)

○将来都市像

- ・本市の人口は、平成 17 年では、99,055 人であるが、戦略計画の推計では、その後緩やかな増加を続け、平成 27 年度の 103,000 人をピークに、緩やかな減少過程に入るものと見込まれているため、今後 10 年間では、社会的負担や環境負荷の少ない市街地形成を誘導していく。
- ・市街地形成を進めるにあたっては、移動が円滑にできるよう、都市計画道路の未整備区間の整備を進めるとともに、駅周辺の歩行者ネットワーク整備や、鉄道高架事業を推進し、交通結節機能を充実させ、公共交通の利用促進を図り、人にも車にもやさしい交通体系整備を図る。
- ・東名・名神高速道路の小牧 IC に近い市域南部に、新たな産業用地の確保を図り、活力ある都市づくりを推進する。一方、市域北部の木曾川周辺に代表される恵まれた水と緑の自然環境を活かすとともに、既成市街地における公園や緑地等の整備を進め、暮らしやすい都市環境形成を図ることで、産業と自然が共存する都市環境形成を目指す。
- ・これら都市づくりを進めるにあたっては、地震や火災、風水害対策の防災基盤強化を図ることに加え、市民参画を推進することにより、ハードとソフトが一体となった安心・安全な都市づくりを目指す。
- ・各分野の都市計画を総合的に進めることにより、「住みたい・住み続けたい都市」の構築を目指す。

○具体的な都市づくりの目標

①自然を活かした暮らしやすい環境形成

- ・公共交通機関の利用促進を図るとともに、歩行者ネットワークの整備を進め、地球温暖化防止促進となる環境面に配慮した都市づくりを目指す。(県) 浅井犬山線および木曾川沿いを、市民が親しめる自然環境やレクリエーション空間を創出する場として、緑の軸として位置づけ、整備促進を図る。

②街なかを中心とした快適な都市基盤の形成

- ・江南駅、布袋駅、江南厚生病院は、多くの人が集まるとともに、生活利便施設の集積した地域であるので、ユニバーサルデザイン・バリアフリー化に配慮した道路整備を行う。また、鉄道高架事業を促進し、駅を中心とした市街地形成を進める。
- ・市街地の交通環境向上を図るため、市街地の外周に位置する市道宮田木賀線等を環状軸として位置づけ、整備促進を図る。

③市の活力を牽引する産業機能の強化

- ・生活面、産業面において、一宮市を始めとする周辺都市との結びつきが強いことから、(都) 江南岩倉線、(都) 一宮犬山線などを生活軸と位置づけ、道路整備を含め周辺都市とのアクセス強化を図る。
- ・(都) 北尾張中央道、(都) 愛岐南北線および(都) 豊田岩倉線は、周辺都市と産業面における結びつきが強いことから、産業軸として位置づけ、整備促進を図るとともに、沿道周辺に新たな工業用地を配置することにより、産業機能の強化を図る。

④安心・安全な暮らしを確保する防災機能の強化

- ・地震対策として、緊急輸送道路を始め優先的に通行を確保する路線の耐震対策、沿道の建築物の耐震化を促進する。

⑤市民参画による都市づくりの推進

- ・人口減少・少子高齢社会の到来など、社会情勢の変化に対応するため、アダプト制度などを推進し、市民との協働による都市づくりを目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

愛知県 江南市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・都市交通の快適性、利便性の向上 ・大規模な地震、火災に強い国土づくり等 ・総合的な交通安全対策 ・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成 ・良好な生活空間・自然環境の形成 ・地球温暖化の防止	→ 名鉄犬山線布袋駅付近鉄道高架事業 (国道 155 号 4 車線化含む) → 一般県道 江南停車場線 交差点改良	・鉄道の高架化により、地域分断が解消されるため、江南市の南の玄関口である布袋駅周辺のまちづくり、賑わいの創出が促進される。 ・国道 155 号の 4 車線化により、本市の幹線道路の利便性が向上し、沿道に新たな企業進出が期待でき、地域活力の向上が図られる。 ・鉄道高架により、踏切が除却されるため、交通の円滑化が図られるとともに、Co2 排出削減による地球温暖化防止の効果が期待できる。 ・布袋駅バリアフリー化があわせて図られる。 ・駅の利便性が向上することにより、公共交通機関の利用促進が図られ、地球温暖化防止の効果が期待できる。 ・右折レーンの設置により、江南駅周辺の交通渋滞の緩和が図られる。 ・歩道が整備されることにより、市の中心地である江南駅周辺に良好な道路空間を確保することができるとともに、バリアフリー化が図られる。 ・駅周辺の比較的古い建物が、道路拡幅により建て替えとなるため、良好な街並み形成が図られる。	